

こども部会

1 今年度の活動目標・目的

目的:①災害に備える取り組みを考える

②人材育成

【不足している資源、制度について考える(ワーキングにて)】

・支援度の高いこどものサービス利用に関すること

・父子、母子家庭の支援について(特に長期休暇について)

2 部会開催状況

① 6月18日(火) 15時30分～17時00分 出席者 16名

② 9月 5日(木) 15時30分～17時00分 出席者 17名

③ 11月 8日(金) 15時30分～17時00分 出席者 11名

④ 1月16日(木) 15時30分～17時00分 出席者 15名

【研修会】 11月25日(月) 15時30分～17時00分 出席者 32名

【ワーキング】 ① 7月9日(火) 15時30分～17時00分 出席者 12名

② 8月26日(月) 15時30分～17時00分 出席者 12名

③ 10月24日(木) 15時30分～17時00分 出席者 10名

④ 12月16日(月) 13時30分～15時00分 出席者 11名

⑤ 2月開催予定

3 部会の取組、実施内容

取組	実施内容
① 災害時の対応に関すること	・災害の対応という中にも様々な要素があるため、どの点に重きを置いて災害に向けての準備の発信をしていくか、意見交換を行う。 ⇒発災後、家族のそれぞれの動きと家族の合流まで見える化できるツールを検討し、「家族がどう集合するか」を切り口に、家庭の中で防災・減災・災害時のことについて話し合う機会づくりの促進を図れるものを作成していく。
② 人材育成(研修の実施)	・当事者ご家族のお話を伺い、支援者として必要なこと、大事にすることについて学び、明日からの支援に活かしていける機会を作る。 「父の思い、父の役割」 講師:酒井 基之様 (自閉症の次男のこどもがいるお父様)
③ ワーキングの開催	① 支援度の高いこどものサービス利用について ・障がいが高く支援度の高いこどもが地域の近場でのサービス利用が困難な状況になっており、地域で受け止めがでる方法がないか、検討を行った。 ② 父子母子家庭(特に長期休暇の支援について)

	の支援について ・学齢児のいる父子母子家庭において、留守番が難しい場合、学校の長期休暇中の朝夕支援の手立てがないこと、本人の居場所がないこと、父母の就労に影響することから、長期休暇中の対応について意見交換を行う。
--	--

4 成果

○取組①について 「マイタイムライン(仮称)」の作成

・発災後に家族がどう集合するかという切り口で災害時の対応を考えるための「タイムライン(仮称)」をツールとして作成していく事とした。

・現在、タイムライン(仮称)の内容について検討を重ねている。

2月4日にくらし部会の防災プロジェクト主催の防災フェアにて、参加者に試験的に何人かに記入してもらい、年度明け検証していく予定。

○取組②について 人材育成の機会として有効な時間を持てた

当事者の方のお話を聴く機会、というのはそう多くはなく貴重な機会であり、参加者それぞれが、感じる持ち帰ることがあった研修となった。特に今回父の立場からのお話であり普段あまり聞く機会がないこともありより好評となった。次年度も当事者の方のお話を伺いたい、という希望が多数ある。

○取組③のワーキングの開催について

・一つ目の課題については、そもそも支援度の高いこどもだけでなく、放課後等デイサービスが飽和状態となっており、放課後等デイサービスの利用自体が新規の受け入れ困難な状況であることを踏まえ、地域の他の支援(放課後クラブ)の活用等も含めて検討していく事の必要性を確認した。ご本人の成長にどこを利用することがいいか、ということはもちろん大前提ではあるが、放課後クラブの利用ができるこどもについては、積極的に利用を考えてもらえる仕組みが必要。

⇒こどもの状態や支援度を踏まえた支給量の検討、支給量の指標の検討を行っている。

・二つ目の課題については、放課後等デイサービスの利用時間の延長や、放課後クラブの活用等、父子母子家庭の朝夕の支援の方法について意見交換を実施してきた。

⇒12月から大府市として「放課後等デイサービスにおける開所時間を超えた預かり事業」を独自事業として開始したことを受けて、ワーキングとしての検討終了。

5 課題(次年度以降の実施事項)

① 災害時の対応に関する取り組みについて、「タイムライン(仮称)」を引き続き検討していくこと
・内容についての検討 ・活用方法や活用の普及に関する検討

② 人材育成

次年度の当事者の方を招いた研修を行う。

具体的にどのお立場の方については次年度絞っていく。

③ ワーキングを引き続き開催し支援度の高いこどものサービス利用に関して検討をしていく

・支援度の高いこどもの地域での受け止めについては、まだ検討途中であり引き続き次年度も意見交換していく事が必要。

⇒ワーキングでの検討を通してこども部会として、方法について提案をしていき、運営委員会等でも意見をもらい、市の担当課で検討をして頂くことが必要である。また現在検討している支給量の指標を作るということが最終的な提案内容となり実施していく事となった場合には、利用者や事業所等に丁寧な説明が必要となる。